

RKU Today

流通経済大学広報誌 vol.5

[特集] 龍ヶ崎キャンパス
周辺探訪 -前編-



流通経済大学

AUTUMN 2008

CONTENTS

RKU Today vol.5
Autumn 2008

表紙イラスト：佐々木悟郎

[特集]

04 龍ヶ崎キャンパス周辺探訪 キャンパス周辺に「龍」をめぐる ー前編ー

[インタビュー]

08 流通経済大学社会学部客員教授 五味常明 先生 「学生諸君、未来力をつけなさい」

取材：馬場啓一（法学部教授）

[新組織紹介]

10 教育学習支援センター 一人ひとりの学生にきめ細やかなケアとサポートを

文：鈴木 茂（教育学習支援センター事務部長）

連載 [ロンドン留学余話] パブの話 其の二

12 パブには2種類ある

文：波田永実（法学部教授）

Close Up!

14 流通経済大学 [教職員紹介]

コラム [馬場啓一のRKUウォッチング]

16 弓道部の清々しさ

[OB/OG訪問] 立川が聞く

18 荻津和良 さん（1973年卒業・社団法人茨城県身体障害者福祉協議会会長）

取材：立川和美（社会学部准教授）

[留学生紹介]

20 チャン・バン・チャン さん（ベトナム出身）

「日本は小さい頃から身近な国でした」

取材：沖野雅広（企画広報室）

流経大生が日本選手団サポートプロジェクトに参加

21 北京オリンピックの後方支援として貢献

レポート：荒井宏和（スポーツ健康科学部講師）

22 出版会・校友会からのお知らせ NEWS & TOPICS お知らせ

巻頭言

わが国の多くの大学が当面する課題の一つに、地域社会との連携あるいは地域への貢献がある。もともと、大学発祥の地のヨーロッパでは、キャンパスも学生も教職員も街の中に溶け込み、渾然一体となってコミュニティを形成しているのが一般的であり、大学と地域社会は密接不可分の関係にあるとあってよい。

ここ数年、秋になると卒業期ごとの同期会が開かれている。今年は1971年3月に卒業した3期生が全国から集まった。

1期生、2期生の時も同様であったが、遠方から久しぶりに大学を訪れる卒業生は、ほぼ例外なく大学に来る前にまず当時の下宿先あるいはアルバイト先へ足を向けている。還暦を迎えて、かつての青春期の心の彷徨に思いをいたすとき、地域の人々との交流は大学の教室以上の存在になっているようだ。

現在の学生と地域の人々とのかわり方は、40年前と大きく様変わりしている。「下宿」という言葉はほぼ姿を消し、アルバイト先でもマニュアル優先の機械的対応が主流となっている。しかし、大変うれしいことには龍ヶ崎市でも松戸市でも、学生が祭りや各種のイベントなどを通じて、さまざまな形で地域の方々と交流を深めている。さらには、そうした学生の姿勢、取り組みが地域の人々から高い評価を得ている。地元の評価なくして、今後の大学は存在しえない。





「龍宮通り」のサイン



陸橋にある「たつのご通り」のサイン。サイン左側に龍がデザインされています



森林公園内の石造りの「龍」。口から水を吐き出します



佐貫駅前の「龍ヶ崎市」の標識。水中から天に昇る龍がデザインされています



「龍」の地名

日本には、「龍」を含む多くの地名があります。竜王町・天龍村、あるいは旧名ですが龍ヶ岳町・竜洋町・竜北町といった市町村名や、龍ノ口・天竜川・龍泉洞・龍神温泉といった名称にも「龍」が含まれています。また、社名や山号・寺号に「龍」

を含む神社・仏閣も数多く見られます。

そもそも「龍」は想像上の動物です。胴体は蛇に似て、背にはウロコがあります。四本の足にそれぞれ三〜五本の指を備え、頭には二本の角、口の辺りには長いヒゲを生やしている姿は、よく知られています。平素は水中などに潜み、時に空中を飛行して降雨をもたらすとされ、そのような性格から、航海の守護神や雨乞いの神として信仰されています。

龍ヶ崎キャンパスが所在する龍ヶ崎市の中にも、さまざまな「龍」を見かけます。「龍ヶ岡地区」「たつのご（龍の子）山」「北竜台公園」「龍宮通り」といった地名、「金龍寺」「龍泉寺」といった仏閣、さらに街中のオブジェや看板のイラストにも、多く龍がモチーフにされています。龍ヶ崎のパンフレットには「龍のふるさと 龍ヶ崎」と記されています。



市内中曽根にて。橋の欄干の「龍」の浮彫り



市内中曽根の「龍」のオブジェ



市街地活カセンター「まいん」にて



龍ヶ崎市では、コロケで街おこしをはかっています。市内には各所に「龍ヶ崎コロケ」の幟（のぼり）がはためいています



市内の案内板の「龍」。「龍ヶ崎コロケ」を食べています

【特集】

龍ヶ崎キャンパス周辺探訪 キャンパス周辺に「龍」をめぐる

— 前編 —

龍ヶ崎キャンパスは、今をさかのぼる43年前に流通経済大学が開学した場所です。

校友の皆さんにとっては、かつて学んだ懐かしい土地でしょう。

父母の方々にとっては、御子息御息女が通学あるいは居住する、

いろいろと気にかかる場所でしょう。

今回はその龍ヶ崎という土地を、「龍」に焦点を合わせて探訪します。

文：平島敏幸（経済学部講師）



龍ヶ崎市の市章

龍ヶ崎町時代の昭和2年に制定された龍ヶ崎市の市章も「龍」にちなんだものとなっています。龍が3本の爪で玉をつかむ様子がデザイン化されており、天に昇る龍＝発展する龍ヶ崎市がイメージされています。



佐貫駅前のマンホールのふた。中央に市章が見られます



市内中曽根のオブジェ。市章を具象化したものと思われ



森林公園のベンチ。市章がモチーフになっています



北竜台公園の標識。自然岩に園名が刻まれ、「龍」が浮彫りにされています



市内の案内板の「龍」のデザイン



龍ヶ崎市森林公園の案内板の「龍」



街なかの掲示にも「龍」がデザインされています



栄町の街灯の「龍」



森林公園案内板の「龍」



市街地活力センター「まいん」にて。ひざを抱えた「龍」の置物です



市内神社、手水の給水口



下町の街灯。明かりが灯ると「龍」が浮かびます

「龍ヶ崎」の由来

龍ヶ崎はなぜ「龍ヶ崎」と名付けられたのでしょうか。定説はありませんが、次のような諸説があるようです。

(1) 自然現象説

古代の龍ヶ崎は毛野川（鬼怒川）・蚕飼川（小貝川）・常陸川（利根川）などの河川が合流する葦原だった。気象条件によって、竜巻がしばしば発生して猛威をふるった。川の水を巻き上げる竜巻の様子が「龍の昇天」を思わせ、「龍が立つ崎」＝龍ヶ崎となった。

(2) 地形説

古城の台地（現在、竜ヶ崎二高が建つあたり）から稲敷台地に連なる土地の形状が龍を思わせて「龍ヶ崎」となった。

(3) 領主説

龍崎氏が在地領主としてこの地方を治めていたため、領主名がそのまま「龍ヶ崎」という地名

になった。ただし、「龍崎」を「りゅうざき」「りゅうがさき」のどちらで読むかは明らかではない。

(4) 伝説説

千葉県印旛地方に、龍に関する次のような言い伝えがある。干害で苦しむ農民の祈りに応え、沼の小龍が天帝に背いても雨を降らせる約束をした。大雨が降り出して人々は助かったが、小龍は怒った天帝に斬られて三つに裂けて天から降ってきた。そのような言い伝えである。千葉県にある「竜角寺」（印旛郡栄町）、「竜腹寺」（同郡本埜村）、「竜尾寺」（八日市場）は、龍の頭・胴体・尾のそれぞれが落ちた場所に建てられているという。その龍の落下点のすぐ先にある場所だから「龍が（の）先」＝「龍ヶ崎」となった。



市内の交通標識にも「龍」をモチーフにデザインされたものを見かけます

地名「龍ヶ崎」の発生

龍ヶ崎はいつから「龍ヶ崎」と呼ばれるようになったのでしょうか。実は、鎌倉時代後期の「大田文」（土地台帳）には、「龍ヶ崎」という地名は確認できません。文献の上で「龍ヶ崎」が確認されるのは、戦国期からです。しかし、それに先だつて室町時代中期の一四世紀末に「龍崎氏」が文獻に登場します。龍崎氏は、室町時代には在地領主として現在の龍ヶ崎一帯を支配していました。右記の「領主説」が説かれるのはそのためです。しかし、領主名が地名に転じたのか、地名が領主名に転じたかは、いまのところ不

明としか言いようがありません。龍崎氏を下河辺政義の子孫とする説があります。下河辺政義は、治承・寿永の内乱（古代から中世への移行期における源平の争い）で源頼朝の信頼を得て、常陸国南郡の惣地頭職に任じられた鎌倉御家人です。源義経との関係から後に惣地頭職を没収されたものの、その子孫は龍ヶ崎に土着して開発を進めた、それが龍崎氏だといわれています。この真偽は不明ですが、市内に所在する「頼政神社」は、おぼろげながらも下河辺氏と龍ヶ崎の関わりをうかがわせます。

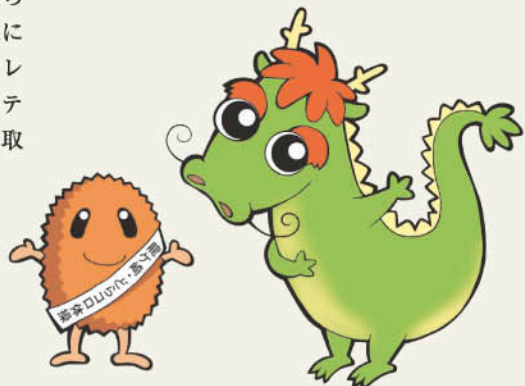
今回は、その頼政神社や龍泉寺など市内の各所をご案内いたします。

どらコロ体操

「どらコロ体操」は「健康づくり」、「楽しみ」をキーワードに、大学、龍ヶ崎市、市民が一体となってつくった「健康づくり体操」です。

市内の公民館や福祉施設、小学校、夏祭り、毎月1回のバザールなどで、小学生から高齢者まで多数の方を対象に普及活動を行っており、テレビで（「体操の時間」フジテレビ・午後2時から放映）取り上げられました。

※学生の皆さんの普及活動への参加をお待ちしております。こうした活動を通して、実り豊かな学生生活を送りましょう。



竜のおはなし

その昔、葦の生い茂った常陸の田の入口にあたる今の竜ヶ崎あたりでは、何日も何日も一雫の雨も降らないため、川も池も干上がり、作物は枯れ、食べるものもわずかなり、村人たちはたいへん苦しんでいました。人々は「どうぞ雨を降らせてください。」と日夜、神様にお祈りしました。すると、大竜神さまに村の娘を捧げれば願いが聞き遂げられるというお告げがありました。けれど村人たちは、それはとうていできることではありませんでした。

あるとき、美しい娘が村人たちの前に現われてこう言いました。「雨が降りますように、私が大竜神さまにお願ひしてみましよう。」娘はこう言い残すといすこへともなく去っていきました。すると程なく、雨がホッホッと降り始め、乾いた大地を静かに潤していきました。人々は小躍りして喜び、天に感謝の祈りを捧げました。けれどもあの娘のことはすっかり忘れておりました。

それからちょうど七日の後に、竜が三つに裂けて降ってきました。実は、娘は小さな竜だったということです。



森林公園案内板



「それにはまず、『自分とは何か』を知ること、これが大事だと思うのです」
 空理空論に走らず、実学の精神で突き進むというのが流通経済大学のモットーである。

「講義を聞いている二百人余の学生に、同じ設問のレポートを書かせました。ところが、設問の意味は『自分の存在とは何か』に対して大多数の学生が書いて出したのは自己紹介でした。つまり生い立ちや属性を書いているのです。自分の存在



[インタビュー]

「学生諸君、未来力をつけなさい」

流通経済大学社会学部客員教授 五味常明 先生

五味クリニック院長であり、海外でのボランティア活動やTV、雑誌のお仕事、そして本学の客員教授など、多忙な日々を送られている五味常明先生にお話を伺いました。

取材：馬場啓一（法学部教授）

『自分とは何か』を知ること、これが大事だと思うのです



左から立川先生、五味先生、馬場先生

を知るには、一旦自分から離れて自己と対峙することが必要。今の学生たちは、自分自身と正面から向き合ったことがないのです。だから自分が見えない。本学での四年間の学生生活は自分探しの絶好の機会になるでしょう」

生物としての人間。これを、前述のように複眼の目でしっかりとらえることから、五味先生の提示する世界は始まるのである。大いにユニークな発想であり、哲学や医学、そして歴史や精神病理学など、行く手はとめどもなく広がり、目指す事柄は増殖していく。「実は医師として看板に掲げているのは、体臭に悩む人々のケアと、その治療で



す。医学のメインは要するに、痛みや苦痛を取り去り、命を救う治療のことです。同時に人間とは悩む存在です。悩みの治療が医師としての私の仕事です」

加えて、海外から積極的に看護師を日本に迎える運動と、現地でそういう人材を養成するボランティア活動も行われている。この分野での日本語教育の重要性において、立川先生と大いに意気投合されたようであった。「ところで私の考える未来力とは、将来、どのような新しい未知のスタンダードが現れても、現在の基準にとらわれずに対応できる柔軟な思考力のことです。本学の学生に、是非これを会得して欲しい」

「北京オリンピックで金メダルを獲得した水泳の北島選手や柔道の石井選手などメダルを取った選手たちは、競技の相手との勝負ではなく、自分との戦いに勝ったと言うべきでしょう。彼らの考え方には柔軟性が見られます。ゆとりある思考が身体能力を出し切って、勝因に結びついたのです」

このように語るのは、今年度から本学客員教授とされた五味常明先生。非常にユニークな方である。スポーツ選手が一流であるには、強い精神力や身体能力だけでなく、未知のどのような状況にも対応できる柔軟な思考力が不可欠であり、そのためには思考方法の多様性と思考内容の特異性の両方が必要と強調する。

ところで、教えてもらっしやるのは社会学部であつて、スポーツ健康科学部ではない。

「本学で一番学生に教えたことはやはり『ものの考え方』でしょうか。単眼的発

想で対象をとらえるのではなく、必ず複眼でものごとを見る。多面的な見方の結果として独眼すなわち「確かな独眼」と呼ばれるオンリーワンの発想に通じるわけです」

実証的で、かつ説得力のあるその語り口は、ずっと話を聞いていたくなる魔力を持っており、まことに魅力的である。これは同席された社会学部の立川先生も同意見。

「二橋大学の商学部を卒業し、あらためて昭和大学医学部を受験し、医師になりました。大学には十年通ったことになりませぬ」

先生を招請した宇田川前理事長とは同窓である。で、シラバスのタイトルには「心とからだ」とある。

社会の中の人間として「心とからだ」を医学的に理解することで、全体的・総合的な見方と、部分的・要素的な見方の両面を養い、リベラルな社会人を目指す、というのがその趣旨だ。

1 よろず相談による悩みの早期解決

本センターは、よろず相談の窓口であることを目指しています。大学生活における「つまずき」が見られる学生については、ゼミ担当教員と連携しながら、学生の状態・状況の把握に努め、問題が深刻化する前にトラブルの早期発見とケア及びサポートを行います。

2 学生生活やキャリア・プランニングへのメンター活動

専任所員と職員、学生組織SASS（SASSはThe Student Assistants For the Students By the Students at RKUの略称で、RKU（本学）の学生による学生のための学生アシスタント）が大学生活におけるメンター（助言者）として、学生の自立性・自発性の育成を図りながら、学修上の相談やキャリア・プランニング相談、学生生活上の相談等を行っています。

また学生組織SASSを本センター内に位置づけ、様々なイベントを共に企画し本学学生の交流を活発にする活動も行っています。

3 充実した学生生活のために

学生の主体性・自立性の向上を促しつつ学生同士を結びつけ、さらにキャンパスの外でもさまざまな体験ができる機会を作ることも、キャンパスライフの充実を図る上では欠かせません。一例として、オフキャンパス・プログラム「ステップアップフォーラム」があります。地元企業やNPOの協力をいただき社会の中で学ぶことで豊かな人間性を育もうという取り組みであり、学生の自主性、協調性、社会性を養う場にもなっています。

教育学習支援センターは、このように魅力ある参加型イベントを多数用意しています。



キャンパスライフの相談（龍ヶ崎キャンパス）

次に本センターの業務内容等について概要を紹介させていただきます。

学生の学びの意欲を高める 教育学習支援センターの業務

教育学習支援センターの業務のうち学生と直接関わりあう業務は、キャンパスライフの相談・学習の支援・RKU WEEK*を含む初年次の教育という三つの柱から構成されています。本センターには専任所員をはじめとするスタッフが常駐しており、学生の学びの意欲を高めるために学生の相談に対応しています。

* RKU WEEK…高校までの生活スタイルから大学の授業・生活スタイルに円滑に移行することを目的として、入学直後に行われる導入教育です。流通経済大学でのキャンパスライフをスムーズにスタートするためのプログラムを用意しています。



熱心な議論が繰り広げられるステップアップフォーラム（新松戸キャンパス）

流通経済大学教育学習支援センター

kgc@rku.ac.jp

龍ヶ崎キャンパス 5号館3階

〒301-8555 茨城県龍ヶ崎市120

TEL : 0297-60-1174

新松戸キャンパス 南棟6階

〒270-8555 千葉県松戸市新松戸3-2-1

TEL : 047-340-0057

はじめに教育学習支援センター長である佐藤尚人社会学部教授に、センター設立の目的について簡潔にまとめていただきました。

本学は、1965年の開学以来、実学主義・リベラルアーツ（教養教育）の重視・少数教育というモットーを掲げ、学生一人ひとりに寄り



教育学習支援センター長
佐藤尚人（社会学部教授）

添い、学生の個性を最大限に尊重する教育を一貫して目指してきています。

「一人ひとりの学生を大切に育てる」という本学のこれまでの取り組みをさらに推し進め、学生一人ひとりに対してこれまで以上にきめ細やかなケアとサポートを行うことを、本センターではその中心的な目的としております。

今後も本センターはもちろんのこと大学を挙げて学生のサポートに取り組んでまいります。



● キャンパスライフの相談

- ・ 学生生活に関する様々な相談
- ・ 学生参加型イベントの企画
- ・ 修学意欲低下に関する相談

● 学習の支援

- ・ 勉強会の実施
- ・ 履修相談
- ・ キャリア・プランニング相談

● 初年次の教育

- ・ 導入教育としてのRKU WEEK
- ・ 1年生ゼミへのサポート

一人ひとりの学生に きめ細やかなケアとサポートを

本学の教育学習支援センターは昨年十月に設立されました。教育学習支援センターにはいろいろな担当業務がありますが、今回取り上げるのは、学生と直接関わる分野についてです。

文：鈴木茂（教育学習支援センター事務部長）

とスボン姿なので、気をつけているとすぐ分かる。そういうことを知ったのは、常連になったパブで、仲良くなったバーマンに「ここはフリー・ハウスなのか？」とたずねたら、「そうだ」と答え、経営者とおぼしき人物のことを「彼がオーナーなのか？」と聞いたところ、「違う、彼はマネージャーであって、上部組織から派遣されて住み込みでこのパブの管理運営をやっている」と教えてくれたからだ。そのパブはニュー・ボンド・ストリートの真ん中近くにあるエルメスの店の隣にあるチューダー様式のしほいパブで、THE COACH & HORSES (コーチ・アンド・ホースイズ) という名前だ。本学のスポーツ健康科学部の松田英教授のお気に入りのパブで、場所もロンドンのど真ん中、オックスフォード・サーカスからも近く、建物のたたずまいもすばらしく、店の雰囲気もよく、



ハムステッドのパブ、デューク・オブ・ハミルトンの建物とパブ・サイン

古くからあるパブの中には、サルーン・バーとパブリック・バーの二つの出入り口が別々に付いているパブがある。前者は中の作りが少し豪華で値段も高く中産階級が集まり、後者では労働者階級が飲んでいた。両者の間には仕切があつて、行き来することは出来ないようになっていた。実際に行き来はなかった。階級制度が厳然としてあつた頃の話だ。この名残で、中の仕切と出入り口が別々に付いているパブはまだかなり残っている。



コーチ・アンド・ホースイズのパブ・サイン

松田教授に紹介されて初めて行った私もすっかり気に入って大学の帰りに足繁く通ったパブだ。残りのごくわずかなパブがいわゆる純然たる個人経営のフリー・ハウスということになる。ロンドン北部の高級住宅地にハムステッドというところがある。私が好んで通うようになったもう一軒は、そんな静かな住宅地にあるパブである。ハムステッドには、よいパブが沢山あることは知っていた。それは吉田健一・高城明文の「ロンドンのパブ」という本に紹介されていたからだ。しかし、ハムステッドというのは小高い丘の上にひろがる閑静な住宅地で、東京でい



「THE DUKE OF HAMILTON」の表紙

えばさしずめ麻布界隈といったところで、どうも敷居が高く最初のうちは足が向かなかつたのだ

が、ものは試しと行ってみた。そこで発見したのが THE DUKE OF HAMILTON (デューク・オブ・ハミルトン) というパブである。三階建ての赤煉瓦の建物で、地下と一階がパブ、二階以上がオーナー一家の住居になっている。パブ・サイン (看板) には一七二一年創業と書いてある。建物も創業当時のものらしい。オーナーは六〇過ぎの恰幅のいい親切な親爺さんである。ラグビーをこよなく愛する陽気な長男 (親爺さんにそっくり) が主として店を切り盛りしていて、別に仕事を持っている弟もたまに店を手伝う。後はアルバイトの若者たちだ。ここは完全なフリー・ハウスののだが、置いてあるビターはいつも同じだ。フラーのロンドン・プライドとESB (エクストラ・スペシャル・ビター) というビターがメインだ。そして時々ゲスト・ビールが入れ替わる。つまり親爺が気に入ったビターしか出さないわけだ。一年間ロンドンのパブに通つ

てみて分かったことは、いつも同じパブに、同じ曜日、同じ時間、同じ顔ぶれであらわれて(もちろん一人の場合もある)、同じビールしか飲まない人が圧倒的に多いことだ。私は最初の中にはいろんなパブに入つて、いろんなビターを試してみたが同店と同じものを飲むことの方が希望であった。しかし、それには当たり前があるのは当たり前で、その中、自然にいつも行くパブが決まってくる。だからそのパブの常連が入つてくると、カウンターの中のバーマンやバーメイドは何も聞かずに「いつものやつ」を一ポイント注いで客の前に出す。客はポケットからゴソゴソ小銭やしわくちやの紙幣を取り出して払い「チューズ」といってグラスを受け取り、やお友達の顔を探し出して話に行く。そして「やあジョージ」とか「やあチャールズ」とかファースト・ネームで呼び合つて楽しそうにビターをチビチビやりながら一時間でも二時間でも立ったまま話しこんでいる。これがイギリスのパブの日常風景だ。

ロンドンのパブあれこれ (2)

昔は馬車のステーションだった THE COACH & HOESSES

THE COACH & HOESSES という名前のパブはロンドン市内にはいくつもあ

る。多くが通りの角に建っている。coach とは車両のことだ。つまり COACH & HOESSES とは4頭立ての馬車のことで、この名前の付いたパブは昔は乗り合いの馬車のステーションであったものが多い。かつては一階がパブで待合室を兼ねていて、2階がINNつまり宿屋であつた。ローカル・パブの多くが宿屋を兼業していた。いまでもこうしたローカル・インを紹介したガイドブックが出ている。地方に行けば、村に一軒しかないパブが宿屋を兼業するのは当たり前であった。飲んで、食事ができて、宿泊できるから便利だ。



こちらは、グレート・マールバラ・ストリートとポーランド・ストリートの交差する角にあるコーチ・アンド・ホースイズのパブ・サイン

パブには2種類ある

波田永実 (法学部教授)

イギリスで1年間過ごした筆者がロンドンのパブを語る「パブの話」。連載2回目は、パブの経営形態についてです。



イギリスの古くからあるパブの中には、サルーン・バーとパブリック・バーの二つの出入り口が別々に付いているパブがある。前者は中の作りが少し豪華で値段も高く中産階級が集まり、後者では労働者階級が飲んでいた。両者の間には仕切があつて、行き来することは出来ないようになっていた。実際に行き来はなかった。階級制度が厳然としてあつた頃の話だ。この名残で、中の仕切と出入り口が別々に付いているパブはまだかなり残っている。

ただ、ここで言わんとする二種類のパブの話はそのことではない。現在、イギリスのパブの大体九割以上はビール会社の所

有だ。従つて、そこで出されるビールはその会社の製品がメインということになる。ではそれはどうしたら判るのか？

一番簡単な方法はパブ・サイン (パブの看板) を観るといい。レッド・ライオンだとか、キングス・ヘッドとかさまざまな名前のパブが個性的な看板(パブ・サイン)を掛けている。パブ巡り(これをパブ・クロウリングという。パブをいくつも這いずり廻るといふ意味)をしていると、その看板にパブの名前の他に、ニコルソンとかヤングとかグリ

ン・キングとかコーレッジとかフラーとか書いてあるものが案外多いことに気づく。それがパブを所有しているビール会社の名前である。つまり、イギリスのパブの大半がビール会社の直営店ということになる。ビール会社はたいがい数種類のビールを造っているのだから同一メーカーでも選択は可能だ。それでもその会社以外のビールを飲みたい時はどうなるのか？

そういうビール会社直営のパブでも「ゲスト・ビール」という形で他社のビールを飲ませることがあるし、ラガー・ビールや瓶ビールも豊富な種類が用意されているので選択肢は広い。客はカウンターの真ん中に立った何本も並んでいるビア・コック (ビールを汲み出すポンプのレバー) についたラベル

を見て好きなビールを注文する。レバーを引くとビールがグラスに注がれるのだが、パイプは地下のセラーに直結している。ビールの樽はそのセラーの中で冷やされている。冷蔵庫の中でビールを冷やしているのではなく、地下の一室そのものが冷蔵されているのである。料金は一杯ずつカウンターで現金払いだ。(ちなみにイギリスには地域限定の地ビールがたくさんあるのが特徴である。)

では残りの一割弱のパブはどうなのか、といえば、それがフリー・ハウスである。ビール会社の直営ではないパブのことだ。従つて、フリー・ハウスでは原則的に経営者の判断でどの会社のどのビールでも置くことが可能だ。こうしたパブは大体看板や入り口にフリー・ハウスと書いてあるものが多い。しかし、これにも二種類あることが分かった。

一つは、フリー・ハウスのパブを統括している上部組織があり、これがマネージャーを派遣し管理運営を行い、その上部組織の決めたローテーションに従つて飲めるビールが入れ替わるパブがある。たぶん、コスト計

算した仕入れの関係でそうなるのだと想像した。どうしてそういうことになるかと言え、パブの多くが創業二〇〇〇〜三〇〇年の老舗だ。建物も由緒あるものが多い。多くは看板に何年創業と書いてある。であれば、個人がそれを所有し経営することはなかなか難しくなつてきているらしい。そこで上部組織が酒や食材を大量に一括して仕入れて各テナントに配分する、という経営と管理を引き受けているのだ。こういうフリー・ハウスのパブはメニューのデザインが画一化され、店員が黒いシャツ



コーチ・アンド・ホースイズの建物。場所はニュー・ボンド・ストリートのエルメスの店の隣の角



[新松戸総合事務センター(入試担当)]

篠原正行 係長

1996年4月に母校である流通経済大学に就職し、気がつけば13年目。

現在所属している入試センターでの業務は8年目に突入しました。ご承知おきのとおり、18歳人口は年々減少する中で、募集活動を含めた入試業務は激変の真っ只中です。その中で最大の变化は募集活動の中で「学生が主役」になりつつあること。

オープンキャンパスでの「在学生の生の声」、WEBサイトでの「在学生情報」など学生が活躍する場は広がるばかりです。

大学の入り口を担当する部署に身を置いても学生との関わりは年々深くなる一方で、時には学生の個々の成長を目の当たりにすることができるようになりました。

また、高校生に近い目線での意見をもらえるなど学生に教えられることもしばしば。

学生との関わりが深まるにつれ、「学生に感謝！」の気持ちも深まるばかりの今日この頃です。

学生に感謝！



[スポーツ健康科学部]

松田哲 准教授

スポ健学部には、「松田」姓の専任教師が3人、同年齢の准教授が3人いる。本学出身の専任教師は、野尻学長を含めて3人。子どもは3人。「3」に縁のある人のようだ。

本学18期の卒業生。経済学部だったが、「教育社会学」に興味を抱き、筑波大学大学院の教育研究科に。

ギターを抱えての授業に、学生の人気が集まる。「人間関係」や「メディア社会」をテーマにこれまで十数曲作った。いうなれば、シンガーソングライター。ギターつきの講義は、学外でも評判である。映像つきの「コンサート形式の講演」を全国各地でおこなう。

授業で繰り返し訴えるのは、「対話の大切さ」。とくに「聴く力」を養うこと。これがなければ、真の“対話力”が身につかない。多くの人との対話を通してこそ、自己を表現する能力が高まる。

このことを多くの人、とくに教師を目指す学生に伝えたいという。

(粟田房穂・記)

「対話の大切さ」を訴える



[法学部]

前田聡 講師

筑波大学から赴任したばかりの前田先生は沖縄のご出身。高校野球で沖縄の高校が活躍すると、我がことのように嬉しいという。「専門は憲法から見た名誉毀損です」

憲法にうたわれる、人権を通しての名誉毀損の概念、これがご専門である。

「父も、祖父も、沖縄で新聞社に勤務しておりました。法と人権、公人と個人、といったことには、割に早くから目を開かされていたようです」

なによりソフトな物腰と語り口が、前田先生の身上である。

「マス・メディアの発達で、日本人の名誉毀損の考え方は随分と変化を遂げましたが、でも残念ながら、憲法の視点からの議論が乏しい。だから名誉毀損は、これからさらに論じられるべきだと思っています」

こういう硬くて難しいことも前田先生からうかがうと、なんだか面倒くさくなく、響く。

「本学は何より居心地がよく、研究と講義に打ち込めます」 (馬場啓一・記)

名誉毀損は、これからさらに論じられるべきだと思っています



[流通情報学部]

林克彦 教授

私の専門は物流ロジスティクス、特に国際物流です。今着ているこのシャツは「メイドインチャイナ」とありますが、どのようにして私の手元に届いたのかを考えるのも研究の一部ですね。この領域は複雑で、たとえば原材料については現地調達のほか、特殊な高機能繊維等の場合には日本や欧米で調達したものを中国に輸出することもあります。世界で調達した原材料を使って染色、裁断、縫製等を行った後、流通加工、検品、検針を行って、日本に輸入されます。現在は中国がアパレルの中心ですが人件費の高騰や景気調整で今後は変化が見られるでしょう。経済は生き物ですからね。今年の夏は、中国の広州からベトナムまで調査に行ってきたのですが、今後はこうしたアセアン地域が注目されます。

「ロジスティクスビジネス論」の授業では、トラックや鉄道輸送など伝統的なイメージが強い物流について、企業のロジスティクスマネジメントに対応できる包括的なサービスの在り方などを、現代の事例を交えて考えています。

プライベートでは、学生時代に始めたフルート演奏が趣味ですね。(立川和美・記)

ロジスティクスは変化に富む分野です



[社会学部]

高口央 講師

私の専門は社会心理学です。現在はリーダーシップの分野、特にサブリーダーの研究を中心としています。心理学では基本的に「リーダーは一人」という考え方があるのですが、私自身が一人のリーダーの難しさを感じたことがこのテーマとの出会いですね。これは最近盛んに言われるようになった「リーダーの仕事の共有」という概念に基づくものなのですが、リーダーの仕事は何人かで分散することで、集団がよりよいものになっていくんです。

授業では、対人関係や友人関係、恋愛など、日常的なテーマを取り入れながら、行動の変化の仕方や行動パターンについて紹介しています。本学の社会学科では、心理学に興味を持っている人が、福祉や社会調査などを学べますし、その逆も可能です。その意味でとても恵まれた環境が整っているので、ぜひ積極的に学んでほしいと思います。

プライベートでは、1歳3か月の息子と一緒に遊んだり、散歩したり、お風呂に入ったり、もっばら育児をしていますね。(立川和美・記)

恵まれた環境を生かし、幅広い領域に目を向けてほしいと思います



[経済学部]

市川新 教授

市川教授は、人々の、特に「心」と「腹」での意思決定を研究されています。工学院大学工学部で情報工学を専攻、ポートランド州立大学公共行政学部やミシガン大学情報大学院の客員教授などを務め、1994年に教授に昇格されました。

情報とは、「すべての生物にとって未来に向かって生きる手段です」と教授は言います。「人間はさらに知識を創造し蓄積し共有していきます」と言います。このことから、市川研究室では、「経営とは、個人・集団・組織・社会が情報によって未来に向かって生きようとする」という概念のもとに、インターネットやマルチメディアに代表される現代情報革命がもたらす変革を中心に、情報と人々の意思決定について広く研究を深めることを目標としています。

学生には、国会図書館での文献収集、企業研修センターによる体験学習、会社経営ゲームによる経験学習、研究室専用ウェブサーバーを使った情報発信の実習を指導されています。「カラダ(身体)を使って学ぼう」が研究室の合言葉なのです。(平島敏幸・記)

「カラダを使って学ぼう」を合言葉に

「馬場啓一」の R K U ウォッチング 5



弓道部の清々しさ

本学創立以来の歴史と伝統を誇る運動部、それが弓道部である。現在の部員は十三人、うち四名が女性だ。弓道練習場は龍ヶ崎キャンパスの澤村記念館脇を抜け、左に少し下ったところにある。

現代文章論ゼミで教えている一年生の田村卓也君が、拙宅でのコンパのおり、弓道部の素晴らしさを語っていたので、あらかた試験も片付いた夏の午後、見学に赴いた。

顧問は金子養正先生（経済学部）。部長は四年の村越達也君、監督は同じく四年の佐々木誠君である。実際の活動の主体は三年生が担っており、法学部自治行政学科の藤井友介君が主将を務める。

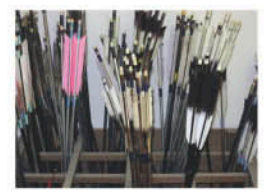
実にしっかりと学生で、

はきはきした受け答えが上等である。これなら就職試験の面接も大丈夫だろうと、余計なことを考える。

ちなみに田村君も優秀な学生で、岡山県出身。ゼミの連中の牽引的存在となっている。

夏の弓道場に立つ。的は五基。それを見つめる若いまなざし。

二十八メートル先の的は直径三十六センチ、中央の黒い丸は九センチである。次々に矢が放たれる。命中すると、「よっしゃ」という声上がる。ゴルフのナイス・ショットみたいなものかと思えない。そうですと答えがあった。実は「良い射」と言っているらしい。



真摯に、黙々と練習に励む部員たち。そのひたむきな鍛錬ぶり。加えて部員諸君の挙措とたたずまいの素晴らしさに、大袈裟でなく感動に近いものを憶えた。この感興はどこから来るのか。

見渡すと全員が袴を着用している。胴衣は白もあれば黒もある。どちらも袴と見事にマッチしている。

男女を問わず日本人には袴が実によく似合うのがわかる。その姿まことに清々しい限り。

凛々しい、という表現を国語辞典から探し出す。久しぶりに使う言葉だ。実に凛々しい。

弓道場内には姿見すなわち鏡が置かれている。これを見て自分の姿を正しく直していく。

射形、と呼ばれる射姿を正しく保つ。これが弓道の極意のようである。

だらしなく、尻に掛けるようにジーンズを履いている学生が、本学に限らず、



左から飯島有理（流通情報学部2年）、亀井惇（社会学部1年）、石井政光（経済学部1年）

現在の日本には数多くいる。論評するまでもなく、全員服装点は落第。唾棄すべき格好である。

しかし彼らも、ひとたびこういう「いでたち」をさせたら、少しはまともに見られるのだろうか。いっそ袴を本学の制服にしたらと、過激なことを考える。

それはとにかく、弓道部の清々しさは、袴姿の立ち居振る舞いに、その秘密がありそうだ。殊に女子学生にその感が強い。日本文化論を教えている身としては、

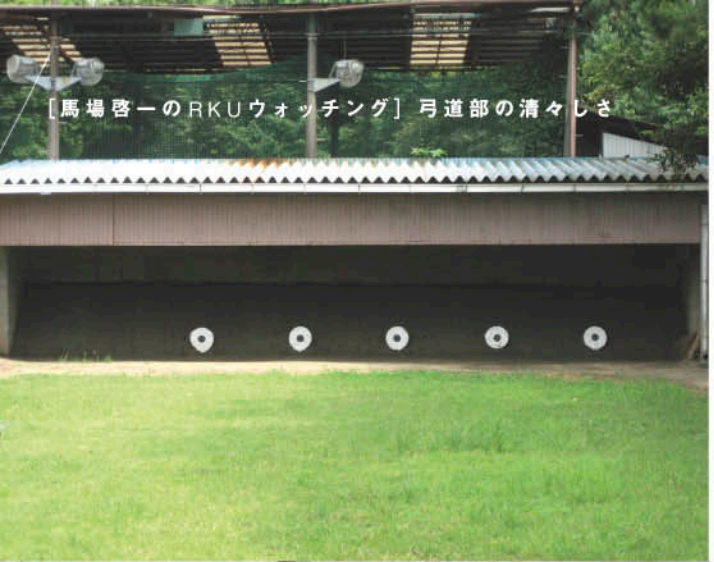
ひじょうに心強く、嬉しい限り。

残念ながら本学弓道部の、競技会での成績は、凄いやというようなものではないらしい。

だがそれでもいいではないか。

弓道は老若男女を問わず、肉体の大小も不問であるという。こういうスポーツもあるのだ。

弓道部の清々しさに接したことで、いまどきの学生に対する見方が少し変わった。



「馬場啓一のRKUウォッチング」弓道部の清々しさ



田村卓也（法学部1年）





常に夢を持って
進んでいって
ほしいと思います

荻津和良さん

(一九七三年 経済学部卒業)

今回のOB/OG訪問は、茨城県身体障害者福祉協議会の会長をなさっている本学五期ご卒業の荻津和良さんにお話を伺いました。

取材…立川和美(社会学部准教授)

本学の五期のご卒業ということですが、どのような学生時代を過ごされたのですか？

経済学部で学んだのですが、当時はまだ流通経済大学が開学して間もないころでしたので、学生数も少なく、また知名度も今ほどではなかつ

たんですね。最近では、新聞などで大学の名前を目にすることが多くなり、後輩たちの活躍を見るにつけ、卒業生としてとても誇らしく、嬉しく思っています。野尻学長とは同期でして、彼は勉強熱心な学生でしたが(笑)、私は専ら部活動に打ち込んで

いました。空手部の主将を務めておりまして、結構強かったんですよ。部員三〇人くらいでよく大学の周りをランニングしたことを覚えています。ゼミは、渡辺博史先生の「なべゼミ」に所属していて、社会調査などをみんなで手分けして行いましたね。

ゼミの仲間は、北海道から九州までいろいろな出身の学生で構成されていましたから、それぞれのご実家にお世話になって、そこを拠点に全国を旅したのは、良い思い出です。そのほかには、宅配のアルバイトなどもしましたよ。

卒業後は、すぐに証券会社にお勤めになりましたが。

大学もそうだったのですが、「やはり地元の企業に」という気持ちがありまして、水戸証券に勤務しました。そういう意味では保守的でしたね。その後、兄の経営する会社に移り、政治の世界で仕事をしようになるのはそれからなんです。

お父様が茨城町長をお務めになつていたことも、やはり現在のお仕事に就かれたことと関係しているのでしょうか？

そうですね。私が高校生の時に父の選挙を近くで見えていまして、その頃から政治には知らず知らずのうちに興味を持つようになっていたのでしょうかね。茨城町議会議員を三期一年勤めた後、現在の茨城県議会議員になりました。議員の仕事というのは、議会に出席することのほかに、現在の社会の様々な問題などについて勉強したり、また直接地域の人々の声を聞いて、どのようにして解決していったらよいかを考えたりする「近所の御用聞き」みたいな部分が大いんです。幅広いだけにやりがいのある仕事ですね。

現在は、社団法人茨城県身体障害者福祉協議会の会長をなさつていらっしゃるようですが。

はい。私自身も交通事故で障害を持つようになったことは、やはり大きいですね。政治の世界に身を置く人間として、また障害を持つ人間として、自分であるからこそできるような仕事をしたいと考えています。たとえば障害者福祉という点、一般的には、どのようにして障害を持つ人を助けるべきか、といった議論が中心になるかと思えます。確かにそれも大切ですが、それと同時に、障害者の側から、どのようにそうした福祉活動に関わっていくのか、障害者の立場でできることはないのかといった積極的な活動も必要だと思ふんです。もちろん、これにはいろいろな考え方がいらつしやいますし、また最近では資金面でもなかなか大変ですから、簡単には進まない話ですが。

プライベートはどのように過ごされていらつしやるのですか？

休日というのがなかなかとれないですね。会社勤務の人とは違い、普段の日には九時から五時まで働くというのではないですから、ある意味で毎日が仕事であり、また毎日が自由という見方もできます(笑)。家で休みが取れたときには、本を読んだりテレビを見たりして過ごします。作家では、司馬遼太郎が好きですね。

最後に流経大生にひとことお願いいたします。

常に夢を持つてください、ということですね。夢を持つためには、とまかくどんなことにも挑戦することです。二〇代は、いくらでもやり直しがききます。進んでいって失敗だったと気づいたら、またスタート地点に戻ればいいんです。これは二〇代だからこそできることで、三〇代、四〇代と年齢を重ねてからはできないことです。

私自身、二〇代の半ばに障害を持つようになりました。もし、あの事故がなかったら、全く違う人生を歩んでいたと思うんですね。たぶん、平凡にサラリーマンをしていたんじゃないでしょうか。しかし、そのことがきっかけで人生の方向や考え方が大きく変わったことは事実です。そして、それを現在、悔やんではないんです。若い時に起こった出来事や経験は、あらゆる意味でその後の人生に大きな意味を持ちます。



茨城町にある荻津さんの事務所でお話を伺いました。現在は、平成21年度の茨城空港開港などいろいろなお仕事を抱え、お忙しい毎日とのこと。お目にかかって開口一番「迷わずにいらつしやいましたか」とお心遣いを下さりました。またインタビューの中で、奥様には「苦労をかけているので、本当はゆっくりと旅行に連れて行ってあげたい」というねぎらいのお言葉もあり、人間的な器の大きさが感じられる方でした。

そう考えると、どんなことでも興味を持って、積極的に挑戦することが大切です。それを通して自分なりの「夢」が見えてくるはずですよ。

流経大生が日本選手団サポートプロジェクトに参加

北京オリンピックの後方支援として貢献

レポート：荒井宏和（スポーツ健康科学部講師）



日本選手団公式ユニフォーム

2008年8月、アジアで3カ国目となる夏季オリンピックが北京で開催され、日本は最終的に9個の金メダルを獲得したが、前回のアテネ大会のメダル獲得数には及ばなかった。しかし、金メダルをかけた女子ソフトボールの感動的な活躍や、競泳の北島選手による2大会連続金メダルの快挙、そして陸上リレーチームやフェンシングなど、日本史上初となるメダル獲得は、国民に感動を与えたことは間違いない。

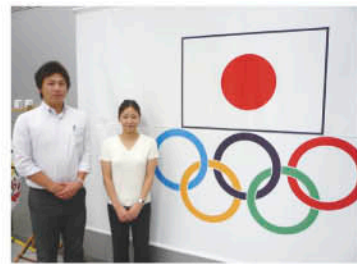
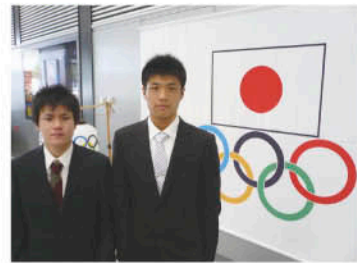
この感動の背景には、選手自身の努力と、周囲のスタッフ（医・科学、情報、栄養、心理）や家族など、周囲の支えがあったことを忘れてはならない。その支えとなった一つとして、日本選手団をサポートするプロジェクトが東京都北区のナショナルトレーニングセンターで実施された。このプロジェクトでは、各国のメダル獲得状況からその国の競技力向上に関する施策などを分析し、我が国のスポーツの国策化に貢献するものである。また、現地スタッフに向けて、様々な映像情報や諸データを提供し、日本選手団の後方支援をする。

そこに本学スポーツ健康科学部、荒井ゼミの木幡美登里さん(3年生)、中山誠刀海君(3年生)、大谷将義君(2年生)、荒川大輔君(2年生)が、このプロジェクトに参加した。中山君は、英国チームのメダリストが、国からどのくらいの強化費を得ていたのかについて調査し、次回ロンドンオリンピックに向けた我が国の強化方策に関する貴重な基礎データの収集と分析を行った。また、木幡さんは、ある競技団体の外国籍選手に関する調査を行い、今後の選手の強化育成のあり方に貢献する分析を行った。

彼らは、日本を代表するオリンピック選手ではないが、この活動に携わることによって、「チームジャパン」をサポートし、その一員としての誇りを感じてくれたであろう。また、このような情報分析の活動が、トップスポーツの世界では欠かせない時代となっている。



情報分析をする木幡さん（スポーツ健康科学部3年）



ナショナルトレーニングセンターにて



留学生紹介

「日本は小さい頃から身近な国でした」

社会学部 / 国際観光学科 / 2年

TRẦN THI VÂN TRANG チャン・バン・チャン(ベトナム)

子供の頃から日本のドラマを見て育ち、中国留学を経て流経大にやってきたという、ベトナム出身のチャンさんにお話を伺いました。

取材：沖野雅広（企画広報室）



——今まで、ご出身のベトナム、留学した中国、現在の日本と住んでみて、どこが一番良かったですか？

生活するのであれば、日本が一番ですね。日本は便利だし、景色もいい。環境もいいです。中国に住んでいた時は、空気が合わなくてニキビがひどかった覚えがあります。ベトナムでも長距離はディーゼル車を使用したり、ちょっとした移動はバイクを使うので、渋滞が解消されません。

その点、日本では電車やバスでの移動は時間通りに行けるし、何より夏はクーラー、冬は暖房が効いていて、最高です。

——食べ物も国によって違いがあると思いますが、日本の食生活はどうされているのですか？

普段は、ベトナムのタレを利用したビーフンが主食

です。他には、アルバイト先の賄いを中心です。納豆やトコロ、梅干なども好きで、お刺身をわさび醤油で食べるのも好きです。

——現在、トンカツや焼きナス作りに挑戦中ですか？

——日本に留学したきっかけを教えてください。

母が日本語の通訳をしていたので、小さい頃から「日本」という国は身近にありましたね。日本のテレビドラマもたくさん見ました。特に「おしん」や「スチュワート物語」が強く印象に残っています。

——将来の夢は？

日本のドラマが影響していますが、空港に就職することです。そのため、大学の国際観光学科を選択し、現在働くために必要な総合旅行業務取扱管理者の資格を取得するため勉強を頑張っています。

——趣味はどんなことを？

読書、ショッピング、水泳です。

しました。わからない言葉は電子辞書で調べたり、同じゼミの友人に聞いたりしながら。でも、読みきるまでに時間が掛かってしまい、図書館から返却してほしいと督促がきました。

——流経大での学生生活はどうですか？

楽しいですね。大学では、日本人の友達ほとんどが年下ということもあって、カワイイですね。

——今年、ベトナム出身の新生が四人も入ってきたのも嬉しい出来事でした。



AED講習会

8月4・5日の2日間で龍ヶ崎市内の小・中学校及び保育園・保育所の教職員に救急救命の大切さやAED（自動体外式除細動器）の使用方法について、スポーツ健康科学部、小峯准教授及び稲垣講師により、講習・実地研修が行われました。



本学では、今後もこのような「生命」について学ぶ機会を増やしていきたいと考えています。

スポーツ方法実習（キャンプ）

スポーツ健康科学部、社会学部の学生を対象に、8月30日（土）～9月2日（火）まで長野県にある湯の丸キャンプ場（本学湯の丸セミナーハウスも利用）にてスポーツ方法実習（キャンプ）を実施しました。



学生たちは飯盒すいさん、ロープワーク、テント設営、登山などのプログラムを着実にこなす中で、キャンプ方法を身につけるだけでなく、仲間との関係を深めました。

龍ヶ崎キャンパス緑化工事

龍ヶ崎キャンパスでは、学生の夏休み期間に1号館・5号館の中央広場の改修工事を行いました。この緑化工事は、キャンパスでの生活を快適でクリーンな環境を提供するための一環であり、今後も学生が過ごしやすいキャンパス作りを目指します。



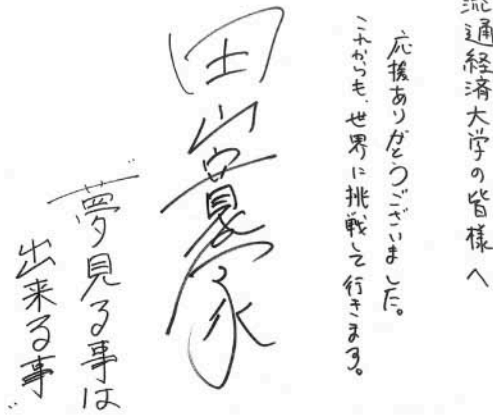
NEWS & TOPICS

北京五輪に田山寛豪選手が出場

8月19日（火）、第29回オリンピック競技大会のトライアスロン競技に、本学職員である田山選手が出場しました。

「大学の教職員を始め、たくさんのご協力があり、北京でのスタートを切ることができました。レース終了後は、「応援していただいた方に申し訳ない」という気持ちでいっぱいでも考えられませんでした。今は、北京での借りはロンドンで返したいと思います」と語る田山選手からは、静かな口調の中にも次への強い意思が感じられました。

※10月には、東京お台場にて2連覇をかけてレースに出場します。応援いただけますようよろしくお願いいたします。



出版会

新刊のご案内



定価 6,300円
A5判 上製
610頁

「農業立地変動論 — 農業立地と産地間競争の動態分析理論 —」
河野敏明 著

日本経済の高度成長に伴い、農業経済も大きく変貌する。その激動する動態過程を立地的に分析し、産地形成・産地間競争などの実践課題に対応するために「現状分析立地論」を、ダン地関数の比較静学的効果と「孤立化法」の応用により展開する。また、農業基本法以降の我が国農業の動態変動過程を、都市化、交通輸送の技術革新、例えば高速道路

の整備とトラック輸送への推移、海上フェリーの普及、生産・流通技術革新、基盤整備、施設園芸の発達などの関連変動要因ごとに実証的に分析した意欲的労作。

農業経済研究者はもとより、国・地方自治体の農政担当者、農協などの農業団体・出荷組織、生産者にも参考となる事例が分析されている。農業・物流関係者の一読をお奨めしたい。

校友会 本学第3期卒業生（昭和46年3月卒）同期会開催、懐かしいキャンパスに集う！

昭和46年3月に本学を卒業した第3期生の同期会が9月13日（土）午後3時から龍ヶ崎キャンパスで開催された。この催しは昨年実施しているもので、昨年は昭和44年卒業の第1期生同期会が龍ヶ崎キャンパスで開催され、昭和45年卒業の第2期生同期会は新松戸キャンパスで開催されている。

当日は、第3期卒業生36名、佐伯弘治学園長、野尻学長、長島賢二名誉教授、浜田好通名誉教授、小山田義夫名誉教授、前田政宏元本学教授が出席された。

卒業してから38年各界で活躍されてきた方は、キャンパスを懐かしそうに見渡し、思い出多い校舎の前で写真を撮ったり撮られたり、恩師と並んで友人の方にシャッターを押してもらおう等懐かしさでいっぱいの時を過ごした。

全体集会のあとの懇親会では、恩師である先生方と学生時代に受

けた講義や成績のことで談笑する方、同期生の方と仕事の関係で名刺交換する方、これからの人生を熱く語る方、学生時代にお世話になった下宿の大家さん、アルバイト先を訪ねその話題で盛り上がる方など時の経つのを忘れ語り合った。

最後に全員で校歌を斉唱し母校流通経済大学のますますの発展を祈念し閉会した。

当日お忙しい中ご出席くださった佐伯学園長はじめ諸先生方そして参加した第3期卒業生の方々、そしてお仕事等でご出席できなかった方々のご健康と今後ますますのご活躍を祈念する次第である。



[編集後記]

●今年度の秋学期の授業は、9月22日（月）から始まっている。授業開始と同時にキャンパスは一気に賑わいをみせている。学生にとって夏休み明けの留意点は、休み気分から一日も早く脱することであろう。

7月末に春学期の定期試験が終了してから毎日自由になる時間を過ごしていたわけであるから中には授業が始まってまだ休み気分が残ったままの学生がいたかもしれないが、今はもうそのような学生はいないものと思う。

●秋学期の前半には1、2年生の学生のゼミの選択・申込み、3年生向けに継続して開催されている就職ガイダンス等があり、11月初旬には龍ヶ崎キャンパスでつくばね祭

（学園祭）が開催される。新松戸キャンパスの青春祭（学園祭）は6月中旬に開催され大盛況であった。

また、運動部のリーグ戦が始まりリーグ戦優勝そして大学日本一を目指した熱戦が繰り広げられる。文化系の団体、サークルも活発な活動を展開する。

この秋が実りの秋になるように心から願う次第である。

●さて、今号（第5号）をもって本誌は発行2年目を迎えることができました。これからは読者の皆様の忌憚りの無いご意見、ご要望等をもとに編集委員会一同、充実した内容で愛読していただける『RKU Today』にして参ります。ご意見、ご要望等がございましたら企画広報室にお寄せ願います。（編集子）

つくばね祭



11月1～2日、龍ヶ崎キャンパスの学園祭（=つくばね祭）が行われます。1日目には、お笑いライブ、2日目には、アーティストライブが行われ、ゼミやサークルによる様々なお店も出店します。たくさんのご来場お待ちしております。

詳細は、つくばね祭実行委員会まで。TEL: 0297-64-0949（平日14:00～17:00まで）

※写真は昨年のおつくばね祭の様子。

三宅雪嶺記念資料館 講演会開催

三宅雪嶺記念資料館では下記のように講演会を開催いたします。どうぞ、お気軽にご来場下さい（入場無料）。

開催日時：平成20年11月29日（土）午後1時より

開催場所：本学新松戸キャンパス

テーマ：明治の女性作家 三宅花圃をめぐって

講師：佐伯順子氏（同志社大学教授）

「明治の女性の語り～三宅花圃と樋口一葉」

三宅立雄氏（三宅雪嶺嫡孫・本学名誉教授）

「祖母・三宅花圃の思い出」

三宅雪嶺の妻である三宅花圃（1868 - 1943）は、近代日本の女性文学の草分けの一人で、樋口一葉（1872 - 1896）を世に送った女性作家として知られています。明治の女性作家は、樋口一葉が新札の図案として採用されて以来、注目を集めておりましたが、近年、さらに関心が高まるようになりました。本講演会は、樋口一葉にも触れつつ、花圃と三宅家が果たした近代文学史上の意義を考えてみたいと思います。また、講演会場に隣接して、企画展示「明治の女性作家 三宅花圃」も開催いたします。

お問い合わせ先/流通経済大学総務課 TEL: 0297-60-1151

お知らせ

本学学生が国体へ出場

本学スポーツ健康科学部に在籍している武井仁美さん（3年）がソフトテニスの茨城県代表として国民体育大会（日時：9月27日～10月1日）に出場します。皆様のご声援、よろしくお願いいたします。



武井選手（右）とペアの久江選手（左）

海外研修について

国際交流センターでは、来春にオーストラリアでの語学・インターンシップ研修を企画しています。海外での体験は、卒業後のキャリア形成に有意義なものとなります。興味のある方は、下記にお問い合わせください。

龍ヶ崎キャンパス 国際交流課（TEL: 0297-60-1164）
新松戸キャンパス 学務課（TEL: 047-340-0291）

[全学]

11/1～2	つくばね祭【龍ヶ崎】
11/29	三宅雪嶺記念資料館講演会【新松戸】
12/9	合唱部定期演奏会【龍ヶ崎】
12/24	合唱部定期演奏会【新松戸】

[就職関連]

10月	第4回就職ガイダンス(3年生)【龍ヶ崎】
	第3回就職ガイダンス(1年生)【龍ヶ崎】
	4年生内定者による「就職活動体験発表会」(3年生、1年生)【龍ヶ崎・新松戸】
	留学生就職ガイダンス(3年生)【新松戸】

※ 10月の予定のみ掲載しています。11月以降については就職支援センターの掲示等で確認してください。

[入試関連]

10/25	AO入試【龍ヶ崎】
11/15	公募制推薦入試【龍ヶ崎】
11/16	編・転入試験／留学生入試【龍ヶ崎】
11/22	AO入試【龍ヶ崎】
12/13	公募制推薦入試／編・転入試験／留学生入試【龍ヶ崎】
12/18	AO入試【龍ヶ崎】



オープンキャンパス開催

(10:30 受付開始 11:00～15:00)



10月11日(土) 龍ヶ崎キャンパス (茨城県龍ヶ崎市平畑120)

10月18日(土) 新松戸キャンパス (千葉県松戸市新松戸3-2-1)

入試相談会も開催中 (AOエントリー受付、推薦入試のための作文指導なども行っています)

龍ヶ崎キャンパス 10/18(土) 11/1(土) 11/8(土) 11/29(土) 12/6(土) 12/14(日)

新松戸キャンパス 10/11(土) 11/1(土) 11/22(土) 11/29(土) 12/6(土) 12/14(日)

得意科目で出願できる公募制推薦入試「学部・学科特別」のご案内

2009年度入学試験より公募制推薦入試「学部・学科特別」を実施いたします。これにより、従来の出願要件のほかに、本学の学部・学科が指定する科目のうち、いずれか1科目の評定が「4」以上であれば、公募制推薦入試へ出願することが可能となりました。詳しくは入試センターまでお問い合わせください。

お問い合わせ：TEL 0297-60-1156 (入試センター直通)



流通経済大学広報誌 **RKU Today** vol.5

2008年10月発行

編集・発行 学校法人日通学園 流通経済大学企画広報室

茨城県龍ヶ崎市平畑120 〒301-8555

TEL: 0297-64-0001(代表)

